

本展は、2024年の春に公募によって集まった中学生で構成されるキュレーター（学芸員）のたまご（略して「キュレたま」）の企画による展覧会です。2018年以来、3年に1度のペースで開催し、今回は3回目となります。全5回のプログラムを通して、美術館の役割やキュレーターの仕事、美術作品のことを学び、それぞれが気に入った作品を選びながら、テーマの設定や出品作品の選定、展示方法の検討等を行いました。

高松市美術館の約1,700点の作品から、19作家28点を7人のキュレたまたちが選

出しました。奈良美智による不思議な表情の少女が描かれた大作《Milky Lake》やビビッドな色使いで細部まで細かく描かれた、できやよいによる《カップリ》などバラエティ豊かなラインナップで紹介いたします。

タイトルの「カラーダンシング?!」は、現代アート作品の色鮮やかさや表現の自由さをヒントにして考えました。鮮やかな色彩で踊るように表現された「?」や「!」をくれる作品たちを、現代を生きる「13歳」によるキュレーションでお楽しみください。

作品リスト

番号／作家名／制作年／作品名／素材・技法／寸法（縦×横×高または奥行）cm

1 北代省三	レーダー 1948／水彩・紙／17.5×22.0	15 岡本太郎	生成 1961／油彩・カンヴァス／228.5×162.5
2 デイヴィッド・ホックニー	太陽（「ウェザーシリーズ」より） 1973／リトグラフ、スクリーンプリント・紙／93.5×72.4	16 イケムラレイコ	Pacific Red 2006／油彩・カンヴァス／160.0×200.0
3 デイヴィッド・ホックニー	雨（「ウェザーシリーズ」より） 1973／リトグラフ、スクリーンプリント・紙／93.5×72.5	17 森本紀久子	作品3 1964／クレヨン、油彩・耐水ベニヤ／138.0×160.0
4 山口 晃	大山崎交通乃圖 2008／水彩、ペン・紙／56.0×75.5	18 村上 隆	そして、そしてそしてそして （赤・ピンク・水色・黄・青） 1999／シルクスクリーン・紙／各40.0×40.0
5 タイガー立石	哀愁列車 1964／油彩・カンヴァス／72.7×91.0	19 村上 隆	DOB ジャンプ！ 1999／シルクスクリーン・紙／40.0×40.0
6 できやよい	カップリ 2003／アクリル・紙／150.0×100.0	20 村上 隆	キラーピンク 2003／シルクスクリーン・紙／70.0×68.0
7 蠶 嘔	アダムとイヴ 1967／油彩・カンヴァス／103.0×13.0×143.5	21 村上 隆	ブカプカ 1999／シルクスクリーン・紙／67.0×50.0
8 ヤノベケンジ	ミニ・アトムスーツ 2003-2013／ガイガーカウンター、プラスチック、他 96.0×45.0×33.0	22 村上 隆	ンチャ!! 1999／シルクスクリーン・紙／48.0×67.0
9 松井えり菜	エブリデー審判デイズ 2020／油彩・カンヴァス／162.5×130.5	23 村上 隆	シャンピニオン 2002／シルクスクリーン・紙／70.0×68.0
10 堂本尚郎	絵画 1961-22 1961／油彩・カンヴァス／162.0×130.0×2.0	24 篠原有司男	女の祭り 1969／シルクスクリーン・紙／70.0×142.5
11 奈良美智	Milky Lake 2001／アクリル・リネン／259.3×259.0	25 横尾忠則	第6回東京国際版画ビエンナーレ 1968／シルクスクリーン・紙／103.0×72.8
12 宮永愛子	ポスト 一景色 2010／パリで見つけたポスト、樹脂、ナフタリン 106.5×126.5×8.0 1対	26 横尾忠則	能 蘭の会 1969／シルクスクリーン・紙／103.0×72.8
13 吉村益信	WING WITH MIRRORS 1966-67／アクリル、ネオン、ミラー 60.0×60.0×115.0	27 横尾忠則	文楽 椿説弓張月 1971／シルクスクリーン・紙／103.0×72.8
14 松本陽子	ガリラヤの海 1990／アクリル・カンヴァス／227.0×182.0	28 横尾忠則	X'MAS PARADISE 1971／オフセット・紙／106.0×76.0

2024年10月2日 水 — 12月26日 木

開館時間：9:30～17:00（ただし、特別展開催期間 10/12～12/8の金・土は19:00まで。
展示室入室は閉館30分前まで）

休館日：月曜日（ただし、10/14〔月・祝〕、11/4〔月・振休〕は開館、10/15〔火〕、11/5〔火〕は休館）

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL:087-823-1711

キュレたまと学芸員による
ギャラリートーク ※要観覧券

10月6日（土）14:00～

【常設展示室 ②】讃岐漆芸の三技法 — 蒟醬・彫漆・存清

香川の漆芸（讃岐漆芸）は、その祖といわれる江戸時代後期に高松藩に仕えた玉椿象谷によって、アジア諸国や古い時代の作品の研究が進められ、技法が確立されていきました。その後、明治期に入り、西洋文化の流入や近代化によって憂き目に合いながらも、多数の職人・作家を輩出しました。大正・昭和には、後に重要無形文化財保持者に指定される音丸耕堂、磯井如真らが、帝展など国が主催する展覧会で頭角を現しました。第二次世界大戦後も二人の教え子や弟子たちを中心に発展し、現在に至ります。

本展では、讃岐漆芸の三技法「蒟醬」、「彫漆」、「存清」を、その技法が施された18作家30点を紹介しながら紐解いていきます。象谷による《堆朱紅葵饌盒》や《堆黒張成香合》

は古く伝わる作品を参考に制作されたと考えられ、象谷が讃岐漆芸の技法を確立するため、実作と考究を繰り返していたことが理解できます。磯井如真の《宝玉筆筍》は、三技法全てが用いられたユニークな作品で、いずれの技法にも精通した如真らしい作品です。明治期以降手掛けられることの少なくなった「存清」ですが、制作とともに素材や技法の歴史を学術的に研究した太田儔による《藍胎存清短冊箱連翹之圖》では、咲き誇る花を浮き立たせるように効果的に扱われています。

讃岐漆芸の歴史を振り返りながら、漆芸家たちの巧みな技と独創的な表現をお楽しみください。

作品リスト

No. / 作家 / 作品名 / 制作年（記載のないものは不明） / 寸法（縦×横×高または奥行、直径×高）cm

1	玉椿象谷	存清香盒	1842 / 6.2×6.2×2.3	16	磯井如真	蜻蛉之圖 香盒	1937 / 6.2×4.3
2	玉椿象谷	狭貫彫堆黒 松ヶ浦香合	1851 / 8.7×2.3	17	音丸耕堂	彫漆月之花手箱	1942 / 27.3×30.3×22.5
3	玉椿象谷	存清 蓮文盆	31.5×3.3	18	音丸耕堂	彫漆蘇鐵文 食籠	1948 / 23.8×11.8
4	玉椿象谷	印筥	11.9×11.9×12.1	19	音丸耕堂	彫漆八仙花 香合	1950 / 7.4×5.0
5	玉椿象谷	堆朱紅葵饌合	1852 / 14.5×12.8	20	明石朴景	彫漆 菖蒲華紋筐	1952 / 30.4×33.4×9.8
6	玉椿象谷	模古製 黒漆菓盆	1851 / 23.0×2.4	21	安本一夫	蒟醬匣 萌	45.0×37.0×20.0
7	玉椿象谷	堆黒 張成 香合	1853 頃 / 8.3×3.6	22	北岡省三	彫漆短冊箱 碧麗	1995 / 41.0×11.0×8.5
8	磯井如真	瑞鳥蒟醬香盆	1947 頃 / 36.7×4.1	23	石原雅員	彫漆小筆筍 花苑	2004 / 30.0×10.8×17.4
9	磯井正美	蒟醬存清 林間爽風 箱	1987 / 30.2×19.3×11.5	24	藤川黒斉	存清花文鞍	39.0×40.5×27.0
10	大谷早人	藍胎蒟醬 文箱	1989 / 24.4×30.6×5.6	25	藤川黒斉	存清宴盆	36.5×91.0×14.0
11	太田加津子	乾漆蒟醬 水指 独楽文	2002 / 25.0×13.6	26	磯井如真	存清六角香盆	1942 頃 / 39.5×4.2
12	山下義人	蒟醬箱 くれない	2005 / 13.5×26.5×13.5	27	香川宗石	讃岐漆存清花蝶紋色紙箱	1965 頃 / 30.9×28.0×6.5
13	佐々木正博	蒟醬草花文八角箱	2011 / 16.8×28.0×13.0	28	太田 儔	藍胎 存清 短冊箱 連翹之圖	1987 / 39.0×16.9×5.8
14	石井磐堂	紅花緑葉 桐鳳凰之圖 香盒	1928 / 5.0×8.0	29	辻 孝史	乾漆存清八角箱「三兄妹」	2020 / 32.0×11.0
15	森 象堂	狭貫彫 紅花緑葉茶量 福自天来之圖	1931 / 10.1×4.6×1.6	30	磯井如真	宝玉筆筍	1947 / 12.0×11.5×11.5

キュレタまと学芸員による
ギャラリートーク ※要観覧券

10月6日(土) 14:00～

2024年10月2日 水 — 12月26日 木

開館時間：9:30～17:00（ただし、特別展開催期間 10/12～12/8 の金・土は19:00 まで。
展示室入室は閉館 30 分前まで）

休 館 日：月曜日（ただし、10/14[月・祝]、11/4[月・振休] は開館、10/15[火]、11/5[火] は休館）

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL:087- 823-1711

